

観光事業研究部

KANKOJIGYO-KENKYU-BU



OB・OG会長の児玉茂幸氏。観光関係の仕事にも従事していた根っからの観光好き(右)。皆さん、あちこちで思い出話や近況報告をしていた(左)



夢中になってビンゴの数字とにらめっこ(右)。人数が多すぎて、一度に集合写真が撮れずに年次別に撮影することに(下)



児玉会長を囲んで、観研の仲間たちがパチリ



目白の杜に多くの仲間が集まった 観光事業研究部創部50周年記念大会

観光事業研究部は昭和28年、観光事業研究会として、故山田明夫氏(昭32政)を中心に20名弱のメンバーでスタートした。そして平成15年、600名近くのOB・OGを輩出したが、50周年を迎えることとなった。その観光事業研究部創立50周年記念大会が平成15年10月4日、学習院創立百周年記念会館小講堂で開かれた。

実行委員長山本義幸氏(昭50政)の開会の辞に続き、児玉茂幸OB・OG会長(昭39経)の挨拶で会は始まった。児玉会長は部の歴史を振り返りながら、諸先輩方への感謝を述べた後、「この会を新たな観光事業研究部のスタートとしたい」と締めくくった。

来賓として田島義博学習院長、草刈廣俊校友会副会長(昭31政)がそれぞれの旅の思い出を交えた挨拶をした後、永田良昭学習院大学長(昭29高)の乾杯で歓談がスタートした。

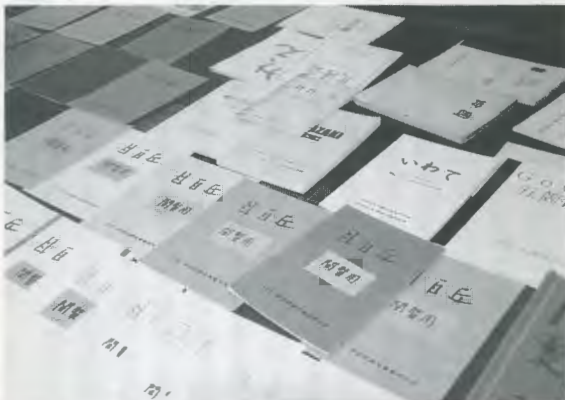
会の途中、年次別の集合写真が撮影され、中にはいい感じでお酒が入り、顔を真っ赤にしながら写真に収まっている方もちらほらと見られた。写真撮影に続いて、余興のビンゴゲームが行われ、もともと遊び好きの皆さん、急に真剣な顔になり、手元のカードと司会者と、交互ににらめっこしていた。1等賞品は観研らしく箱根富士屋ホテルのペア宿泊券で、夫婦揃って観研OB・OGの方

に当たった。

また小講堂入口脇には、会報誌「目白丘」のバックナンバーがずらりと展示され、皆さん懐かしそうに見入っていた。「あ、これ私がかいたの」とか、中には「この『目白丘』の名前は僕が付けたんだよ」という方もいて、それぞれの思い出を語り合っていた。

会も終わりに近づき、菅原豊OB・OG会代表世話人(昭38経)の「次回もまた、皆さん元氣にお会いしましょう」との言葉と、参加者の大きな拍手で会は締められた。

今回、遠くは北海道、九州からの参加者も含め、OB・OG・現役、130名以上の方が集まった。



懐かしの会報誌「目白丘」と研究報告書が展示されていた